

平成29年度 地産地消等優良活動表彰

地産地消は、地域の生産者と消費者を結び付け、食料自給率の向上を図る上で重要であるほか、直売や加工などの取組を通じて農林漁業の6次産業化による地域の活性化にもつながるものとして、一層の推進が求められています。また、国産農林水産物の魅力を広く発信することを通じて、消費者の日本の食や農林漁業への理解を促し、国産農林水産物の消費拡大を推進していくことも重要です。そこで、全国各地のそれぞれの立地条件を活かした創意工夫のある様々な地産地消及び国産農林水産物・食品の消費拡大を推進する取組・活動を募集し、その成果や持続性、地域への寄与等について優れたものを選考の上、表彰しています。表彰された取組内容を広く紹介することで、自主的な取組を促進し、更なる地産地消や国産農林水産物の消費拡大の推進を目的に実施します。

応募部門

地域振興部門

- ・学校給食又は事業所での給食等における地域の農林水産物の利用促進
- ・地域の直売所、加工施設、農家レストラン等における地域の農林水産物の利用促進
- ・地域の伝統料理や伝統作物、伝統文化の活用
- ・地域の未利用資源の発掘・活用の促進
- ・地産地消を活かした産地づくりや遊休農地・施設の解消
- ・地産地消と環境保全、地域循環システムを結び付けた取組 など

交流促進部門

- ・地産地消と食育、食農教育を結び付けた取組
- ・消費者との交流及びニーズを踏まえた地域の農林水産物の生産、新商品の開発、販売
- ・都市部等の他地域との交流による地産地消の取組
- ・観光業等他業種との連携による地産地消の取組
- ・体験農業や観光農園、市民農園の推進等による生産者と消費者の交流活動など

消費拡大部門

- ・事業所での給食、食品製造、中食、外食等における国産農林水産物・食品の利用促進
- ・国内の生産者に対する支援活動、生産者と協力した取組
- ・国産農林水産物・食品の消費拡大に繋がる普及啓発又は販売促進取組
- ・販売網や流通経路に関するビジネスモデル
- ・体験等を通じて日本の農林漁業への理解を促進する取組 など

表彰の種類

- 農林水産大臣賞 …… 2点以内
農林水産省食料産業局長賞 …… 数点
全国地産地消推進協議会会長賞 …… 数点

主催

全国地産地消推進協議会

平成29年度 地産地消等優良活動表彰の審査結果について

地産地消等優良活動表彰の概要

6次産業化を進める上で重要な地産地消及び国産農林水産物の消費拡大の取組を一層促進するため、全国各地で、それぞれの立地条件を活かした創意工夫のある様々な地産地消や国産農林水産物の消費拡大の取組を募集し、審査委員会による審査を経て、その成果や持続性等について優れたものを選考の上、表彰する。なお、本表彰は平成17年度から実施しており、本年度は12回目である。

選定の概要

- (1) 応募期間：平成29年7月24日～8月25日
- (2) 応募者数：93件（最終書面審査に残った応募者数）
- (3) 審査：審査委員による書類審査及び審査委員会を開催し、受賞者候補を選定。
全国地産地消推進協議会幹事会の議決をもって、受賞者を決定。

審査委員名簿（五十音順・敬称略）

赤池 学 株式会社ユニバーサルデザイン総合研究所 代表取締役所長
勝本 吉伸 株式会社シンセニアン 代表取締役
小針 美和 株式会社農林中金総合研究所 部長代理
椎川 忍 一般財団法人地域活性化センター 理事長
中村 貴子 京都府立大学 生命環境科学研究科 講師
野見山 敏雄 東京農工大学大学院 農学研究院 教授
古屋 由美子 有限会社アイエヌアールコンサルティング 代表取締役

<審査基準>

地産地消等優良活動表彰実施要領の審査基準に照らし、優れたものについて表彰。

部門	賞	活動主体の名称
地域振興部門	農林水産大臣賞	たつの市集落営農連絡協議会（兵庫県）
	農林水産省食料産業局長賞	敦賀市生活改善実行グループ連絡研究会（福井県）
		山梨県厚生連健康管理センター（山梨県）
交流促進部門	農林水産大臣賞	栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会（滋賀県）
	農林水産省食料産業局長賞	株式会社ジェイエイあぐりすかがわ岩瀬（福島県）
		群馬県立藤岡北高等学校 バイオビジネスコース（群馬県）
消費拡大部門	農林水産省食料産業局長賞	有限会社河内屋商店（福島県）
	全国地産地消推進協議会会長賞	日本醤油工業株式会社（北海道）

兵庫県

たつの市集落営農連絡協議会

平成29年度

地産地消等優良活動表彰

農林水産大臣賞

地域振興部門

醤油メーカーと結びついた地産地消の取組

たつの市、農業改良普及センター、JA、メーカー等が協議会を設立し、水稻・小麦・大豆の栽培技術や品質の向上を図り、契約栽培による栽培面積の拡大等から、耕作放棄地が解消したり、農業経営が安定化するなど、生産者と実需者の双方にメリットを創出しつつ、地場産業（醤油、素麺）の維持・拡大、地域振興に繋がっています。

また、地力低下による収量減を防ぐため、醤油粕を散布しやすいペレット堆肥化し、契約圃場への利用推進を図り、循環型農業に寄与しています。



醤油醸造用小麦「ゆめちから」契約圃場



大豆巡回研修の様子



地場産原材料を活用した醤油醸造

敦賀市生活改善 実行グループ連絡研究会

福井県

平成29年度
地産地消等優良活動表彰

農林水産省
食料産業局長賞

地域振興部門

「自ら作り、売り、学び、伝える」ふるさと敦賀の伝承料理

敦賀市生活改善実行グループ連絡研究会の始まりは昭和56年と古く、活動内容は時代とともに変化しながらも、地産地消を基軸とし、農家の女性が農産物や加工品を販売し収入を得て自主活動すること、地域の食文化を伝えるという活動理念には揺るぎがありません。当初は小さな直売市であった「うりや市」は、好評を得て次第に拡大し、地産地消の先駆けとなって2箇所の農産物直売所を開設する原動力となりました。また「ふるさと敦賀の伝承料理講習会」は会の設立以来37年間継続して一般市民だけでなく小中学校において、年に7～8回開催している他、農産物直売所で「にしんすし」に代表される敦賀の伝承料理の加工品を販売し、地域の食への愛着を育んでいます。



農家の女性による活動のルーツ「うりや市」



伝承料理講習会



夏の「にしんすし」

山梨県 山梨県厚生連健康管理センター

平成29年度
地産地消等優良活動表彰

農林水産省
食料産業局長賞

地域振興部門

人間ドックの昼食に山梨県産の農産物の魅力をPR

山梨県厚生連健康管理センターでは、平成23年4月から人間ドック受診者へ昼食時に、県産野菜を中心に新鮮な野菜をバイキング形式で提供しています。野菜は、県内のJA直売所を中心に集荷し、共選に出せない農作物（個選）も積極的に仕入れ、農家の作付けに安心感、計画性をもたらせるよう努力しています。また、河口湖レタス、八幡いもなど地元の野菜もPRしています。

毎日、管理栄養士が野菜の必要量や効果・効能も伝え、栄養支援も実施しています。さらに、季節に応じて、食育イベントを開催し、日本の伝統文化に関する情報提供を行い、山梨県の伝統野菜や県産の果実を使用した料理を提供し郷土食の継承なども行っています。



山梨県産野菜のサラダバー



本日の逸品のぶどうをPR



中秋の名月イベント